

(6) 製剤業務

当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進し、院内製剤品目は必要最小限として
います。昨年度までと比べ、血清点眼などの眼科領域の使用量が増加しました。

主な製剤総量（令和5年4月～令和6年3月）

薬品名	規格	数量	薬品名	規格	数量
6倍PAヨード洗眼液	50mL	588	ZENTEL	30mL	4
塩酸エピネフリン0.03%	50mL	624	2.5%酢酸	100mL	35
滅菌エピネ・キシロ1:1	50mL	66	2.5%酢酸	500mL	51
滅菌グリセリン	30mL	10	20%硝酸銀液	20mL	4
脱気水	1000mL	165	液状フェノール	10mL	2
トリパンプルー0.1%液	1mL	20	2%ホルマリンアルコール	500mL	1
滅菌ビオクタニン2%	10mL	299	5%内服用ルゴール	500mL	6
0.1%ブリリアントブルーG染色液	10mL	100	1%内服用ルゴール	250mL	7
滅菌テールカイン液0.3%	5mL	50	1.2%ルゴール液	250mL	13
滅菌テールカ・エピネ1:1	50mL	80	0.8%ルゴール液	500mL	8
1.2%口腔外科用ルゴール	50mL	36	ブリック(SPT)テスト		1
0.5%硫酸アトロピン点眼液	50mL	14	水性ゲル	450mL	3
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5mL	12	5%チンクレスタミンクリーム	100g	6
4%キシロカイン点眼液 分注	5mL	224	2%ハイドロキノロン	10g	59
20%血清点眼液	5mL	185	5%ハイドロキノロン	10g	67
プリピナ点鼻液 分注	5mL	30	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	3
0.02%クロルヘキシジン点眼液	10mL	1	0.1%レチノイン酸	10g	30
1%ブイフェンド点眼液	5mL	12	0.2%レチノイン酸	10g	20
0.5%デノシン点眼液	5mL	60			
2%SADBE アセトン	50mL	2			
1%SADBE アセトン	50mL	4			
0.1%SADBE アセトン	50mL	3			
0.01%SADBE アセトン	50mL	5			
0.001%SADBE アセトン	50mL	4			

令和5年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注 射 剤	0本	内・外用液剤	43L
点眼薬・点鼻薬等	543本	軟 膏 剤	5kg
そ の 他	240L	坐 薬	0個

(7) 薬学生実務実習受入状況

令和5年度の受入人数は、慶應義塾大学2名、帝京大学2名、星薬科大学2名、横浜薬科大学2
名の計8名でした。

6 検査科

部 長 津 村 和 大
課 長 安 部 さやか

検査科は 39 名の医師・臨床検査技師・看護師と 3 名の兼務医師（病理診断科・放射線診断科・内科）が検査業務を支えています。検査科の全職員が関連医学会・技師会・各種認定機構等が定める多彩な専門資格の取得を目指し、質の高い臨床検査業務を実践しています。

検査科の組織と業務内容

検査科は、(1) 生理検査部門、(2) 病理検査部門、(3) 細菌検査部門、(4) 血液センター（輸血部門）(5) 検体検査部門（委託）、(6) 採血室 の 6 部門で構成されます。

生理検査部門は、心電図検査・血圧脈波検査・呼吸機能検査・筋電図検査・誘発電位検査・脳波検査・各種超音波検査（心臓・腹部・体表・血管等）・超音波ガイド下の生検等を担います。

病理検査部門は、組織診断・細胞診断・手術中の迅速診断・病理解剖を主な業務としています。

細菌検査部門では、提出された検体（喀痰・咽頭粘液・尿・便・膿・血液など）から感染症の原因となる細菌の分離・同定・薬剤感受性検査を行っています。さらに、感染対策チーム（ICT）の一員として薬剤耐性菌の発生状況調査や院内ラウンドに参画します。

血液センター（輸血部門）は、輸血に関連する検査のほか、血液製剤管理を 24 時間体制で行っています。

検体検査部門（委託）では、検体の受け付けと検査結果報告を一括管理しています。尿・末梢血・生化学・免疫等の各種検査を 1 カ所に集約することで、効率性・機能性の向上に努めています。

採血室では、血液採血を主な業務としていますが、患者さんが自宅で採られた尿・便・痰などの検体受け取りも担います。

新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症の対応では、発熱外来や緊急入院時に施行していた抗原検査を自動化した定量検査へ変更し、より正確で迅速な検査体制と致しました。全入院患者に対するウイルス遺伝子検査（LAMP 法）は、検査科による一貫した検体採取・分析体制を継続し、救急医療・緊急対応と適切な感染管理の両立を検査業務の面から支えています。

業務の精度管理と学術活動

質の高い臨床検査業務の遂行の基盤となる精度管理については、技師会・関連団体等のサーベイに参画し、内部精度管理及び外部精度管理を継続しています。令和 5 年度は、第 61 回全国自治体病院学会をはじめとしたいくつかの学会・研究会にて研究報告を行い、論文執筆にも継続して取り組んでいます。他施設との交流活動なども通じて日々の業務を科学的・学術的観点から振り返り、臨床検査業務の質向上に繋がっています。

(1) 生理検査部門

項 目	令 和 4 年 度			令 和 5 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
心電図	14,605	2,382	16,987	15,370	2,567	17,937
CVRR	39	85	124	32	104	136
心室遅延電位	3	2	5	3	1	4
運動負荷	238	1	239	185	1	186
起立負荷	276	51	327	278	62	340
ホルター	275	9	284	311	14	325
トレッドミル	63	0	63	46	0	46
負荷心肺機能検査	0	6	6	1	3	4
ABI	1,035	241	1,276	1,007	198	1,205
SPP	21	34	55	26	19	45
TBI	24	0	24	21	1	22
一般肺機能 (SVC)	1,263	196	1,459	1,460	169	1,629
一般肺機能 (FVC)	1,352	285	1,637	1,460	169	1,629
機能的残気量	79	12	91	71	3	74
肺拡散能力	79	12	91	71	3	74
C・ボリューム	2	2	4	1	0	1
薬剤吸入試験	0	2	2	4	2	6
呼気NO測定	202	11	213	189	19	208
筋電図	417	43	460	190	25	215
神経伝導検査	1,706	323	2,029	1,871	404	2,275
脳波	764	240	1,004	808	215	1,023
脳波(眠剤使用)	7	69	76	1	57	58
ABR	16	22	38	19	19	38
VEP						
SEP						
VEMP						
新生児聴覚スクリーニング	10	633	643	11	648	659
心エコー	2,082	1,151	3,233	2,282	1,152	3,434
経食道心エコー	7	24	31	3	17	20
腹部エコー	3,289	549	3,838	3,310	579	3,889
体表エコー	2,439	152	2,591	2,526	173	2,699
血管エコー	689	626	1,315	754	795	1,549
エコー下生検・穿刺	281	24	305	292	33	325
モニタリング	0	27	27	0	32	32
合計	31,263	7,214	38,477	32,603	7,484	40,087

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項 目	令 和 4 年 度			令 和 5 年 度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病理組織検査	3,282	5,227	8,509	3,459	5,537	8,996
病理術中迅速検査	7	245	252	8	228	236
免疫染色	375	918	1,293	366	996	1,362
特殊染色	114	714	828	110	711	821
電子顕微鏡検査	0	12	12	0	76	76
細胞診検査	6,252	1,562	7,814	5,896	1,367	7,263
細胞診術中迅速検査	0	1	1	0	0	0
病理解剖	1	10	11	1	7	8
合計	10,031	8,689	18,720	9,840	8,922	18,762

イ 剖検状況

科別剖検状況	令 和 4 年 度				令 和 5 年 度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内科	4,927	274	9	3.28	4,913	251	7	2.79
小児科	1,322	0	0	0	1,569	2	0	0
外科	1,547	20	1	5	1,394	15	0	0
脳神経外科	343	10	0	0	338	15	0	0
整形外科	1,159	1	0	0	1,191	2	0	0
形成外科	115	1	0	0	104	0	0	0
心臓血管外科	55	0	0	0	61	0	0	0
皮膚科	175	1	0	0	157	1	0	0
泌尿器科	922	5	0	0	1,126	6	0	0
産婦人科	1,359	0	0	0	1,405	1	0	0
眼科	168	0	0	0	305	0	0	0
耳鼻咽喉科	372	4	1	25	369	2	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	97	0	0	0	89	0	0	0
救命救急センター	756	339	0	0	750	355	0	0
感染内科	0	0	0	0	0	0	0	0
感染小児科	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	188	0	0	0	202	2	1	50
合計	13,505	655	11	1.68	13,973	652	8	1.23

ウ 臨床支援業務

項 目	令 和 4 年 度			令 和 5 年 度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2,233	—	2,233	2,196	—	2,196

(3) 細菌検査

検査項目		令和4年度			令和5年度		
		外来	入院	合計	外来	入院	合計
塗抹鏡検		2,717	3,273	5,990	3,540	3,580	7,120
培養 同定	口腔・呼吸器	1,042	1,542	2,584	1,380	1,674	3,054
	消化器	197	752	949	293	935	1,228
	泌尿器・生殖器	2,070	1,108	3,178	2,482	1,245	3,727
	血液・穿刺液	3,432	4,293	7,725	4,402	4,257	8,659
	その他	283	415	698	403	560	963
嫌気性培養		4,331	5,276	9,607	5,057	5,032	10,089
薬剤 感受性	1菌種	1,258	992	2,250	1,631	1,101	2,732
	2菌種	260	260	520	305	299	604
	3菌種以上	99	132	231	117	99	216
薬剤耐性菌検出		69	83	152	88	91	179
酵母様真菌薬剤感受性		4	1	5	4	1	5
抗菌薬併用効果スクリーニング*		1	0	1	0	0	0
大腸菌血清型別		3	2	5	5	1	6
大腸菌ベロトキシン定性		23	10	33	30	23	53
肺炎球菌抗原定性		0	0	0	0	0	0
ヘモフィルス抗原定性		0	0	0	0	0	0
結核菌LAMP法		13	27	40	10	35	45
コロナLAMP法		18,348	2,283	20,631	13,137	1,489	14,626
合計		34,150	20,449	54,559	32,884	20,422	53,306

※令和4年9月より抗菌薬併用効果スクリーニング検査を開始しました。

※結核菌LAMP法検査は令和6年1月に検査受付終了しました。

(4) 血液センター

ア 検査件数

	令和4年度			令和5年度		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計
血液型ABO式及びRh式	5,185	664	5,849	5,347	575	5,922
抗体スクリーニング 含む抗Di ^a 抗体検査	4,584	1,221	5,805	4,918	1,202	6,120
ABO式亜型の同定	0	1	1	1	0	1
その他の血液型検査	0	0	0	0	0	0
抗体価	9	3	12	5	2	7
交差試験	1,013	2,779	3,792	1,236	2,828	4,064
直接クームス	280	272	552	324	267	591
間接クームス	41	18	59	39	39	78
出血時間	7	2	9	4	3	7
合計	11,119	4,960	16,079	11,874	4,916	16,790

イ 血液使用数量

			令和4年度			令和5年度			
			単位	外来	入院	合計	外来	入院	合計
自己血			1	0	4	4	0	7	7
			2	0	49	49	0	30	30
成分製剤	赤血球製剤	日赤照射 RBC-LR	1	45	145	190	54	141	195
			2	815	1,887	2,702	1,022	2,002	3,024
	新鮮凍結血漿	FFP-LR	120mL	0	0	0	0	0	0
			240mL	111	387	498	100	432	532
			480mL	0	5	5	0	77	77
	濃厚血小板	日赤照射 PC-LR	5	2	42	44	0	41	41
			10	85	404	489	128	542	670
			15	0	11	11	0	9	9
		日赤照射 PC-HLA-LR	20	2	17	19	0	17	17
			10	66	25	91	0	0	0
			15	0	1	1	0	0	0
			20	0	0	0	0	0	0
	WPC-LR	10	0	0	0	14	1	15	

ウ 自己血貯血

	単位	令和4年度			令和5年度		
		外来	入院	合計	外来	入院	合計
液状保存	1	7	0	7	9	0	9
	2	87	0	87	51	0	51
合計		94	0	94	60	0	60

※単位1は200ml、単位2は400ml

(5) 検体検査部門（委託）

検査項目	令和4年度			令和5年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿検査)						
尿定性	52,204	1,267	53,471	57,732	1,642	59,374
尿沈渣	34,765	54	34,819	38,877	80	38,957
尿定量検査	6,202	891	7,093	7,392	1,075	8,467
髄液検査	165	626	791	167	631	798
穿刺液検査	50	257	307	66	240	306
小計	93,386	3,095	96,481	104,234	3,668	107,902
(血液検査)						
血算	114,086	7,360	121,446	118,263	7,900	126,163
血液像	95,141	5,498	100,639	98,285	5,820	104,105
網状赤血球	18,905	673	19,578	20,974	654	21,628
浸透圧	276	307	583	368	380	748
血液ガス	4,731	765	5,496	7,099	926	8,025
赤沈	7,105	6	7,111	6,920	16	6,936
HbA1c	27,587	206	27,793	29,491	217	29,708
凝固関連検査	94,156	10,380	104,536	97,028	10,504	107,532
その他	112	48	160	73	25	98
小計	362,095	25,243	387,338	378,501	26,442	404,943
(血清検査)						
感染症関連検査	61,897	4,673	66,570	70,886	7,648	78,534
薬物関連検査	1,393	609	2,002	1,346	654	2,000
腫瘍関連検査	30,048	322	30,370	31,297	294	31,591
自己抗体検査	5,079		5,079	5,244	2	5,246
血漿蛋白免疫学的検査	114,878	6,775	121,653	119,994	7,358	127,352
小計	213,295	12,379	225,674	228,767	15,956	244,723
(生化学検査)						
血液化学検査	1,976,858	132,469	2,109,327	2,051,619	144,409	2,196,028
内分泌学的検査	40,187	879	41,066	42,997	600	43,597
小計	2,017,045	133,348	2,150,393	2,094,616	145,009	2,239,625
合計	2,685,821	174,065	2,859,886	2,806,118	191,075	2,997,193

(6) 外注検査

検査項目	令和4年度			令和5年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿・糞便等検査)						
尿検査・他	1,393	372	1,765	1,671	306	1,977
糞便検査	1,787	1,095	2,882	1,801	1,281	3,082
穿刺液・採取液検査	74	167	241	95	137	232
悪性腫瘍組織検査	194	62	256	142	83	225
小計	3,448	1,696	5,144	3,709	1,807	5,516
(血液学的検査)						
血液形態・機能検査	15	0	15	12	1	13
骨髄像	237	226	463	213	200	413
造血器腫瘍抗原検査	167	221	388	204	186	390
出血・凝固検査	293	484	777	263	324	587
造血器腫瘍遺伝子・染色体検査	1,111	595	1,706	1,330	505	1,835
遺伝学的検査	14	1	15	11	4	15
先天異常染色体検査	18	11	29	31	8	39
遺伝学的検査 (PGx)	59	31	90	100	43	143
悪性腫瘍遺伝子検査	0	0	0		1	1
小計	1,914	1,569	3,483	2,164	1,272	3,436
(生化学的検査)						
血液化学検査	19,139	1,910	21,049	23,431	1,969	25,400
内分泌学的検査	11,923	2,228	14,151	13,181	2,378	15,559
腫瘍マーカー	13,009	327	13,336	13,129	287	13,416
特殊分析	1,667	226	1,893	1,683	211	1,894
小計	45,738	4,686	50,424	51,424	4,845	56,269
(免疫学的検査)						
免疫血液学的検査	86	24	110	80	50	130
感染症・ウイルス検査	8,464	2,271	10,735	8,626	1,985	10,611
自己抗体検査	20,924	3,003	23,927	21,753	3,059	24,812
血漿蛋白免疫学的検査	17,626	2,182	19,808	17,299	2,221	19,520
細胞機能検査	1,491	149	1,640	1,653	102	1,755
小計	48,591	7,629	56,220	49,411	7,417	56,828
(微生物学的検査)						
塗抹・培養・感受性検査	2,455	3,722	6,177	2,056	3,453	5,509
核酸同定・定量検査	2,464	1,358	3,822	2,758	900	3,658
その他微生物学的検査	235	1	236	290		290
小計	5,154	5,081	10,235	5,104	4,353	9,457
(病理診断)						
悪性腫瘍免疫染色・FISH法検査	450	73	523	313	56	369
小計	450	73	523	313	56	369
(保険収載外検査)						

血中薬物濃度	2,621	314	2,935	2,916	353	3,269
腫瘍マーカー	96	1	97	71	1	72
その他検査	49	31	80	88	36	124
小計	2,766	346	3,112	3,075	390	3,465
(負荷試験等)						
機能テスト	38	12	50	41	8	49
小計	38	12	50	41	8	49
合計	108,103	21,097	129,200	115,241	20,148	135,389

(7) 採血件数

	令和4年度		令和5年度	
	件数	日平均	件数	日平均
採血件数	74,283	304.1	75,961	312.6

(8) 宿日直検査

項目	令和4年度		令和5年度	
	件数	月平均	件数	月平均
血液型検査	1,172	97.7	1,092	91.0
交差適合試験	1,017	84.8	859	71.6
血液製剤払い出し	926	77.2	791	65.9
心電図検査	3,462	288.5	3,486	290.5
コロナ検体抽出	3,325	277.1	3,183	265.3
合計	9,902	825.2	9,411	784.3

※令和2年8月よりコロナ検体抽出業務を開始しました。

(9) コロナ検体採取

	令和4年度	令和5年度
件数	10,056	8,084

※令和2年8月より開始しました。

【各種認定資格取得状況】

日本超音波医学会認定超音波検査士：循環器3名、消化器5名、体表臓器4名

日本リウマチ学会登録ソノグラファー：2名、血管診療技師認定機構認定技師：2名

日本糖尿病療養指導士：3名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：6名（国際細胞検査士3名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師1名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：2名

7 食養科

科 長 太 田 博 子

令和5年度は、入退院支援の一環として、栄養士の入院センター常駐（9時から15時）を実施しました。入院前からの栄養管理、食事調整が実施されるようになりました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として中止していた、糖尿病教室、母親学級は夏から再開され、医療の質の向上と患者サービスの向上につながりました。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数	特別食 比率%
	常 食	軟 食	流動食	計				
令和元年度	184,698	81,839	46,178	312,715	110,888	423,603	387	26.2
令和2年度	166,945	74,464	39,789	281,198	94,324	375,522	343	25.1
令和3年度	174,138	79,731	42,102	295,971	91,088	387,059	353	23.5
令和4年度	176,373	79,730	47,699	303,802	92,983	396,785	362	23.4
令和5年度	177,541	86,770	38,233	302,544	106,907	409,451	373	26.1

(2) 食種別給食数

総 数 409,451 食 100 %

一般食	302,544食	73.9%	— 常食	177,541 食
			— 軟食	40,291 食
			— 嚥下調整食	46,479 食
			— 流動食	3,723 食
			— 調乳	12,711 食
			— 濃厚流動食	21,799 食

特別食	106,907食	26.1%	— 蛋白コントロール 食	41,665 食
			— 脂質コントロール 食	6,527 食
			— カロリーコントロール 食	50,518 食
			— 術後・潰瘍食	6,621 食
			— 調乳 (HMS-2)	1,040 食
			— 大腸検査食	536 食

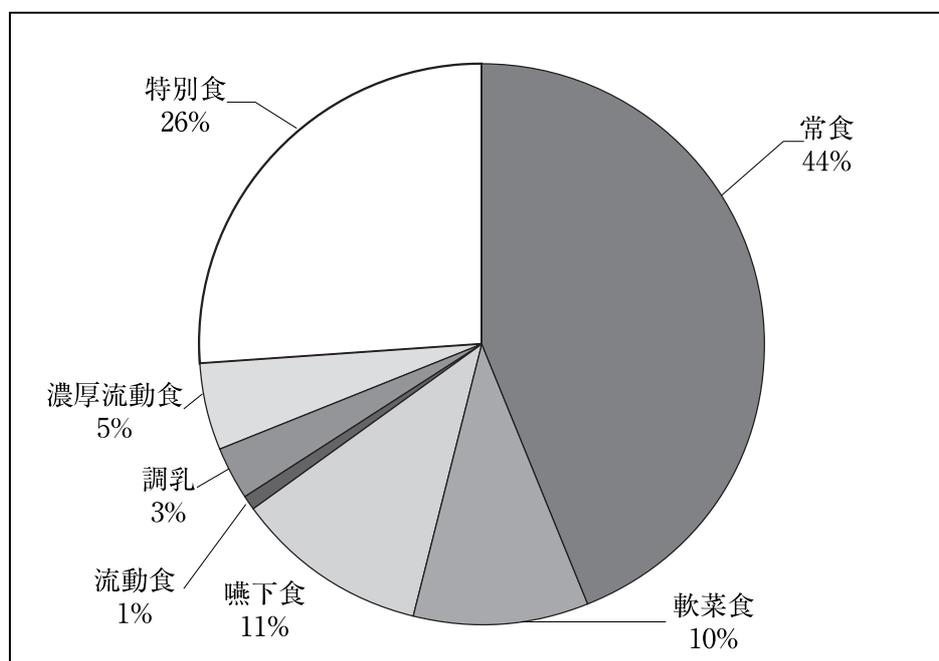
なごみ食 4,705食 (常食として計上)

フリーオーダー食 3,830食 (常食として計上)

定型除去食 141食 (軟食として計上)

検食 4,392 食 (常食として計上)

(3) 食種別比率



(4) 月別給食数 (令和5年度)

月別	一般食				特別食	計	1回の食数
	常食	軟食	流動食	計			
4月	14,351	7,320	2,980	24,651	8,462	33,113	368
5月	15,096	7,000	3,172	25,268	8,821	34,089	367
6月	15,934	6,862	3,628	26,424	8,408	34,832	387
7月	15,162	7,482	3,294	25,938	9,728	35,666	384
8月	15,225	7,538	3,157	25,920	8,470	34,390	370
9月	14,134	7,743	2,908	24,785	8,421	33,206	369
10月	15,098	7,582	2,606	25,286	9,187	34,473	371
11月	15,467	6,701	2,793	24,961	8,436	33,397	371
12月	13,921	7,205	3,181	24,307	8,877	33,184	357
1月	13,548	7,888	3,410	24,846	9,092	33,938	365
2月	14,654	6,730	3,649	25,033	9,241	34,274	394
3月	14,951	6,719	3,455	25,125	9,764	34,889	375
計	177,541	86,770	38,233	302,544	106,907	409,451	373

(5) 嚥下調整食数

嚥下調整食は、全食数の11.3%を占め、年々増加傾向にあります。摂食嚥下支援チーム、栄養サポートチームと共に、経口摂取をめざし、早期介入を行っています。

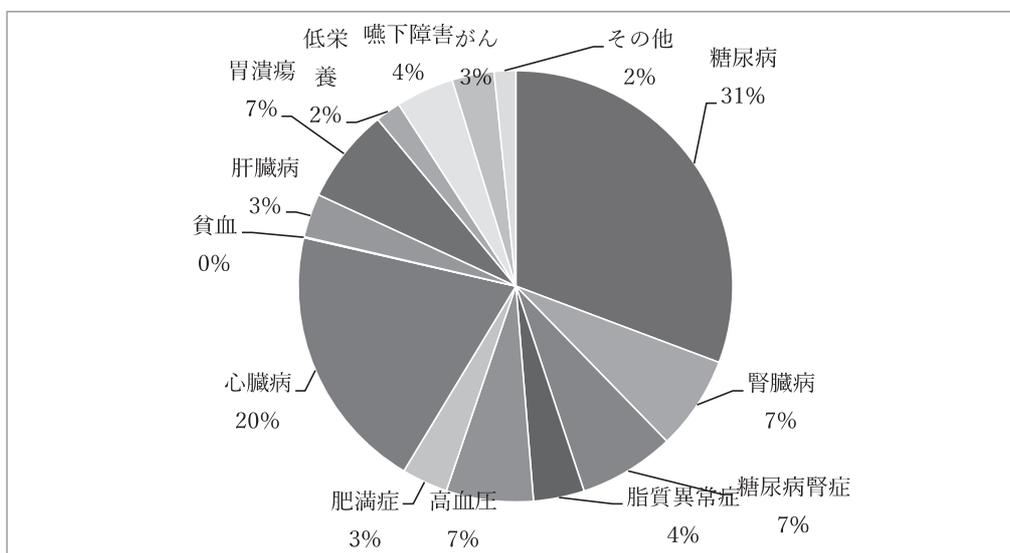
年 度	ゼリー開始食	とろみペースト	とろみきざみ	とろみやわらか	やわらか	計
令和元年度	686	8,333	9,264	5,543	11,726	35,552
令和2年度	133	9,084	11,649	5,996	9,711	36,573
令和3年度	363	9,153	8,892	7,878	11,567	37,853
令和4年度	473	8,256	10,320	8,605	13,700	41,354
令和5年度	168	7,657	9,929	11,382	17,343	46,479

(6) 栄養指導

令和5年度は、個別指導件数に占める入院個別指導の割合が増えています。一方透析予防指導件数はやや減っています。疾患別では糖尿病、糖尿病腎症合わせて38%と糖尿病関連の指導が最も多い割合が続いていますが、「糖尿病」「糖尿病腎症」共に指導件数は減少しています。「腎臓病」「心臓病」「がん」の指導件数が増加しています。

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	肥満	心臓病	貧血	肝臓病	消化管術後胃潰瘍	低栄養	嚥下障害	がん	その他	合計
636	145	148	78	134	71	414	1	68	147	39	89	65	33	2068



8 患者総合サポートセンター

所 長 澤 藤 誠
副 所 長 山 内 秀 行

(1) 地域医療連携

地域の医療機関の皆様からの受付や相談窓口として、また、顔の見える密接な地域連携を目指し、以下の業務を行い連携強化に努めています。

- ア 外来診療の事前予約受付
- イ 地域の医療機関からの緊急受診受付と病床確保
- ウ 医療機器共同利用の予約受付
- エ かかりつけ医の相談、ご案内
- オ 診療情報提供書の管理
- カ 転院調整
- キ 連携登録医事務手続き
- ク 医療機関訪問の実施
- ケ 「診療のご案内」「地域医療連携便り」の発行
- コ 地域医療連携の会・研修会・市民公開講座の開催等

令和5年度 各種統計

紹介率・逆紹介率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率	77.8	74.4	69.0	73.4	70.5	73.4	78.1	79.3	76.4	73.3	77.9	78.5	75.0
逆紹介率	105.5	105.6	98.7	103.0	102.4	106.8	104.0	109.8	128.2	112.0	114.6	133.3	109.9

地域医療連携業務(件)

	紹介予約	緊急受診	転院 (転入)	転院 (転出)	かかりつけ医 ご紹介	診療情報 依頼	診療情報 照会
件数	1,258	1,243	198	90	540	1,031	456

医療機器共同利用(件)

	CT	PET-CT	MRI	骨塩	骨 シンチ	上部 内視鏡	心 エコー	腹部 エコー	X-P	栄養 相談
件数	120	302	116	30	9	30	48	64	1	3

広報活動等

地域連携便り発行	4月、7月、10月、1月発行
外来診療担当表	連携登録医療機関を中心に、毎月約680か所に発送

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（医師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和5年 6月16日(金)	第10回川崎泌尿器科病診連携会	川崎市立川崎病院 キッセイ薬品工業株式会社 フェイリング・ファーマ株式会社	座長 まつやまクリニック 院長 松山 恭輔 1 「過活動膀胱膀胱診療ガイドライン（第3版）改訂ポイントの解説～薬物療法を中心に～」 演者 泌尿器科 原部長 2 「当院での新たな取り組み～ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術～」 演者 泌尿器科 梅田副院長
2	7月11日(火)	川崎南部てんかん連携懇話会	川崎市立川崎病院 第一三共株式会社 ユーシービージャパン株式会社	1 座長 鈴木医院 院長 鈴木 真 「てんかん治療と地域連携の重要性について」 演者 脳神経内科 北菌 医長 2 座長 順天堂大学医学部附属順天堂医院 院長 太田総合病院 脳神経外科てんかんセンター 飯村 康司 「てんかん診療について地域連携で求められる事」 パネリスト（ディスカッション） 高取内科医院 院長 高取正雄 野末整形外科歯科内科 院長 小澤 譲
3	7月22日(土)	第424回川崎市小児科医会症例検討会	川崎市立川崎病院	・一般演題 座長 川崎市立川崎病院 小児科担当部長 有安大典 1) 『肩甲骨骨髄炎を合併した棘下筋膿瘍の3歳男児例』 川崎市立川崎病院 小児科専攻医 佐藤 光 2) 『生後早期に吸気性喘鳴，無呼吸発作を来した巨大甲状舌管嚢胞の一例』 川崎市立川崎病院 新生児内科医員 上田明歩 ・特別講演 座長 川崎市立川崎病院 小児科部長 土橋隆俊 3) 『防ぎうる心停止から子どもたちを守る日本小児科学会 JPLS コース』 聖マリアンナ医科大学 小児科学教室 加久翔太郎
4	7月28日(金)	慶応大学関連病院皮膚科症例検討会	川崎市立川崎病院	参加6病院それぞれから症例数が少ない症例を1例報告し、それぞれの症例に対する診断・治療の検討。

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（看護師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和5年 6月7日（水）	市民公開講座	看護部 認定看護師 会	サクセスフルエイジング 最晩年まで豊かに生きる
2	7月14日（金）	出張講座	川崎市福祉 人材バンク	こどもに身近な病気・ケガ・事故
3	8月2日（水）	市民公開講座	看護部 認定看護師 会	動ける体を保つ 老年期のサルコペニア
4	8月4日（金）	地域ケア懇談会	地域連携部 会	パーキンソン病について知ってみよう
5	10月4日（水）	市民公開講座	看護部 認定看護師 会	最期まで口から 口腔サルコペニアを防ぐ
6	11月1日（水）	市民公開講座	看護部 認定看護師 会	加齢にともなうこころの不調とつきあ う
7	11月29日（水）	出張講座	川崎市福祉 人材バンク	感染管理
8	令和6年 2月9日（金）	地域ケア懇談会	地域連携部 会	もっと知ろう認知症 第1部 認知症の最新治療 第2部 お悩み解決 認知症Q&A
9	2月19日（月）	出張講座	川崎市福祉 人材バンク	心の不調とつきあう 加齢にともなう心の変化

地域の医療従事者を対象としたがん看護に関する総合的な研修の実施状況

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和6年 1月31日（水）	がん看護に必要な がんの基礎知 識	がん診療推 進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・がんという病気の発生と進行 ・遺伝子変異と治療選択 ・がんゲノム医療、遺伝子パネル ・疫学、社会背景 ・拠点病院の役割
2	2月7日（水）	がん看護におけ る安全と倫理	がん診療推 進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護における安全の確保 ・がん看護における倫理的ジレンマ
3	3月22日（金）	療養の場の選択	がん診療推 進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会制度、資源の活用 ・入院前、入院中からの連携 ・在宅療養でできること

(2) 相談・調整

相談・調整課は、入院センター、入退院支援係、医療福祉相談係、がん相談係で構成されています。

地域の保険医療機関や訪問看護ステーション等との連携を強化し、患者さんへの質の高い、きめ細やかな相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となれるように努めています。

ア 入退院支援係

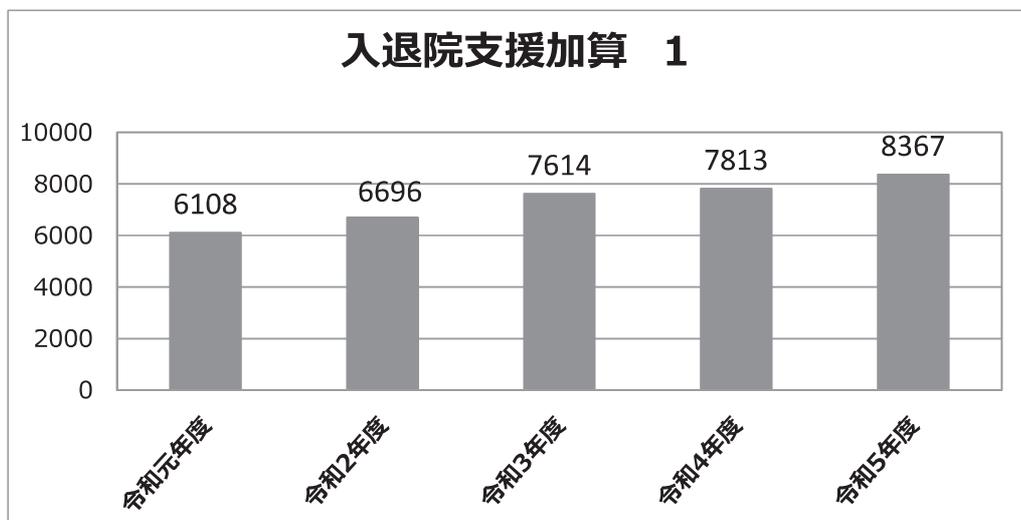
入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、多職種と協働し、退院支援や調整を行っています。また、外来通院中の患者さんの在宅療養支援も行っています。

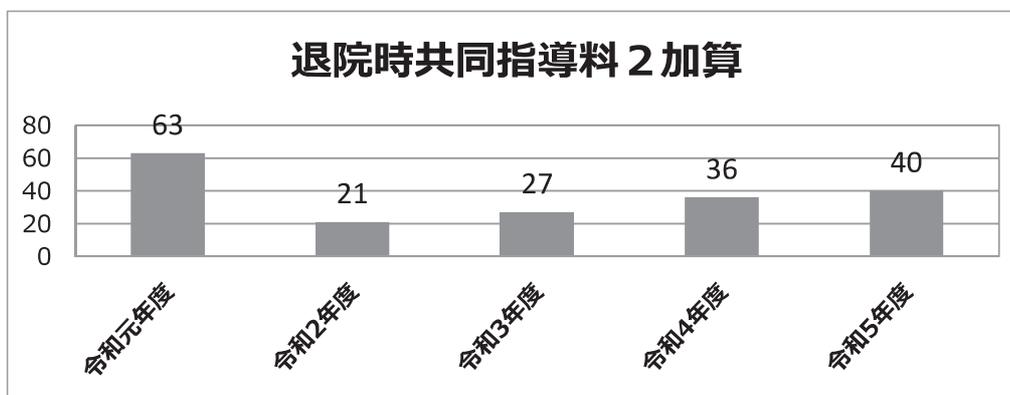
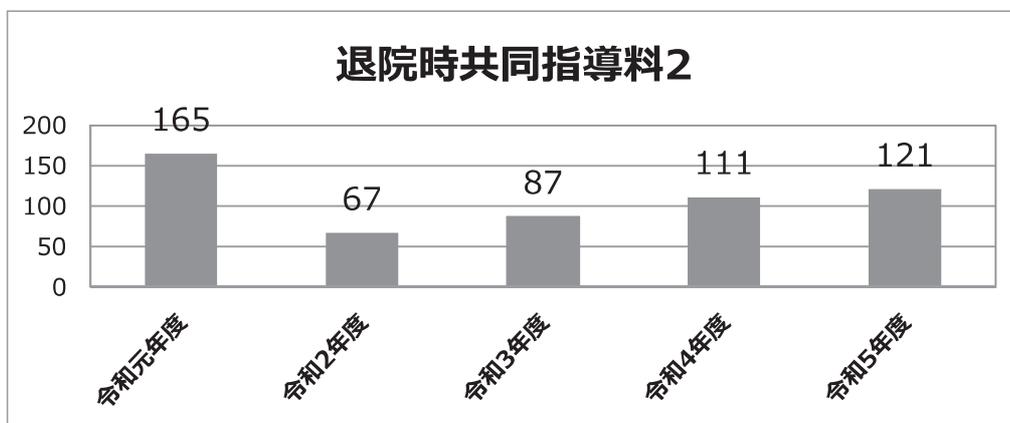
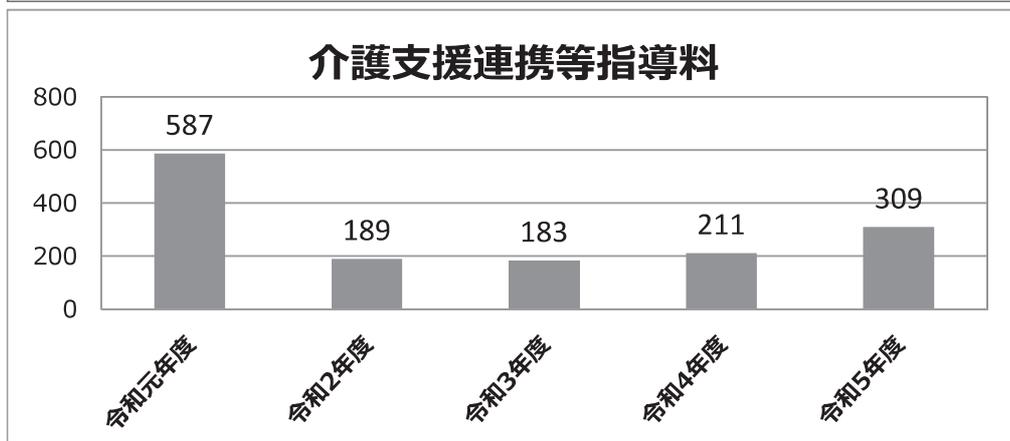
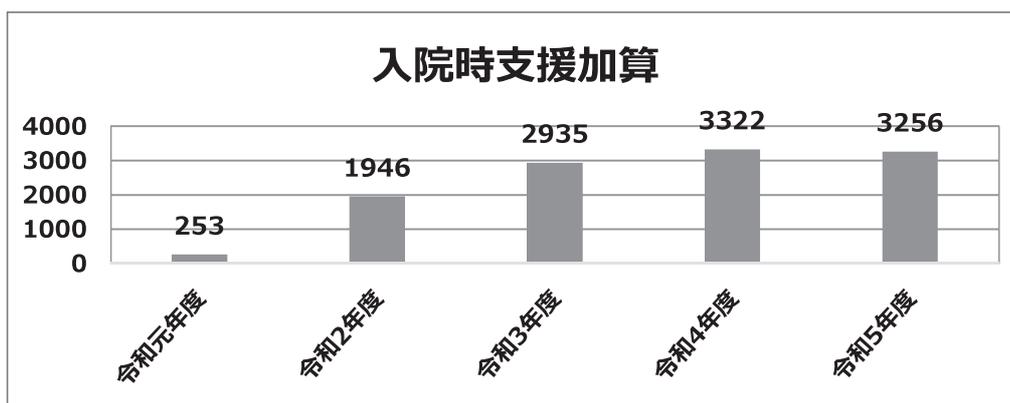
- (ア) 入院患者さんの入退院支援・調整
- (イ) 外来通院患者さんの在宅療養支援
- (ウ) 訪問診療、訪問看護導入等の相談・調整
- (エ) 医療機器、在宅酸素導入時の調整・支援
- (オ) 在宅医療を支える地域のスタッフ向け「地域ケア懇談会」の企画・運営

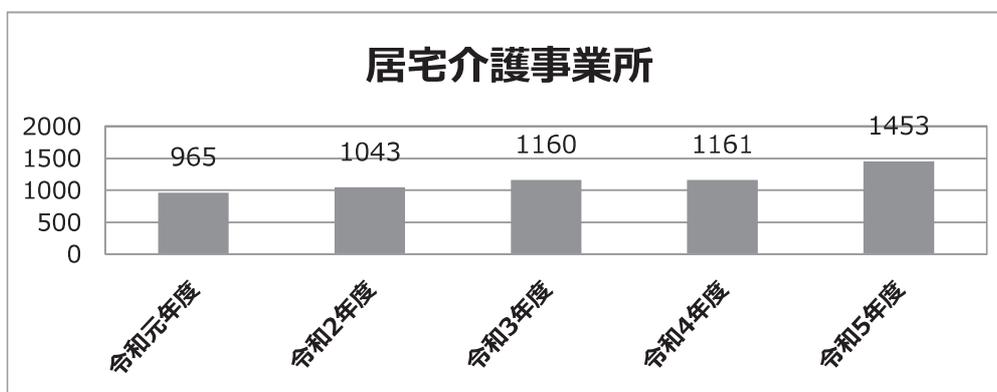
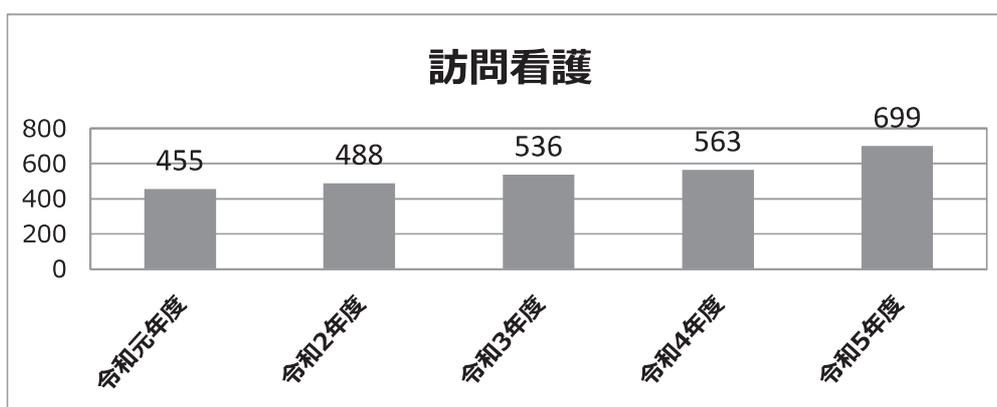
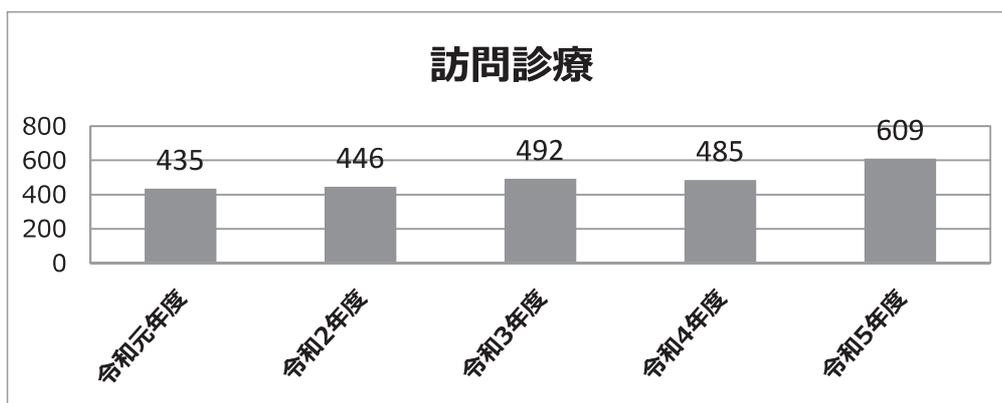
イ 入院センター

入院を予定している患者さんやご家族に、入院中の生活や検査・治療・手術に必要な事項の説明を行います。さらに、常用薬や病歴、日常生活の問題点や入院に関する不安等を聞き取り、安心して入院し、不安なく退院できるようにサポートします。

- (ア) 身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握
- (イ) 入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握
- (ウ) 褥瘡に関する危険因子の評価
- (エ) 栄養状態の評価
- (オ) 服薬中の薬剤の確認
- (カ) 退院困難な要因の有無の確認
- (キ) 入院中に行われる治療・検査の説明
- (ク) 入院生活の説明







ウ 医療福祉相談

病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが患者さんやご家族と一緒に考え、社会福祉の立場からご相談・問題解決の支援を行っています。また、転院調整や施設入所への調整も行っております。

- (ア) 医療費や生活費などの経済的不安の相談
- (イ) 介護保険や障害者手帳などの医療・福祉制度の利用についての相談
- (ウ) 退院支援（転院・施設入所他）
- (エ) 医療通訳派遣依頼
- (オ) 重症心身障害児者短期入所事業の受入調整

医療福祉相談実績（件）

内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受診相談	180	176	196
あんしん見守り一時入院 （*令和4年度まで障害者総合支援法による医療型短期入所）	18	14	28
虐待関係（高齢者・DV・虐待）	25	43	33
産科・小児科関連の相談	69	130	114
経済的相談（医療費・生活費）	755	832	801
福祉サービス活用に関する相談	824	890	906
生活保護・緊急患者に対する医療費・福祉的援助	197	133	271
生保入院患者の保護費配布	55	61	70
退院調整定例カンファレンス	764	1,061	1,055
合計	3,483	3,340	3,474

患者総合サポートセンター窓口業務

内容	令和4年度	令和5年度
各相談受付	2,893	3,459
医療福祉相談	1,868	2,220
在宅療養相談	336	273
アドボカシー相談	151	212
がん相談	719	754
通訳派遣受付	2,419	2,465
面談室利用件数	1,419	1,559
その他・窓口対応職員が対応（面談室予約、院内他部署へ引継）	2,304	1,983
合計	9,035	9,466

地域連携クリニカルパス運用実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
神奈川県脳卒中地域連携パス	25	9	29
大腿骨頸部骨折地域連携パス	3	24	19

退院支援

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回復期リハビリ病棟	178	179	217
医療療養型病棟	58	72	49
一般病棟	64	38	49
緩和ケア病棟	52	59	57
地域包括ケア病棟	57	56	100
介護療養型医療施設等	4	14	8
その他病棟(精神科病棟, 障害病棟)	20	21	20
介護老人保健施設・介護老人福祉施設	28	40	35
民間介護施設	91	94	107
(転院支援を行なったが、在宅退院となった件数)	209	207	190
合計	761	780	832

エ がん相談係

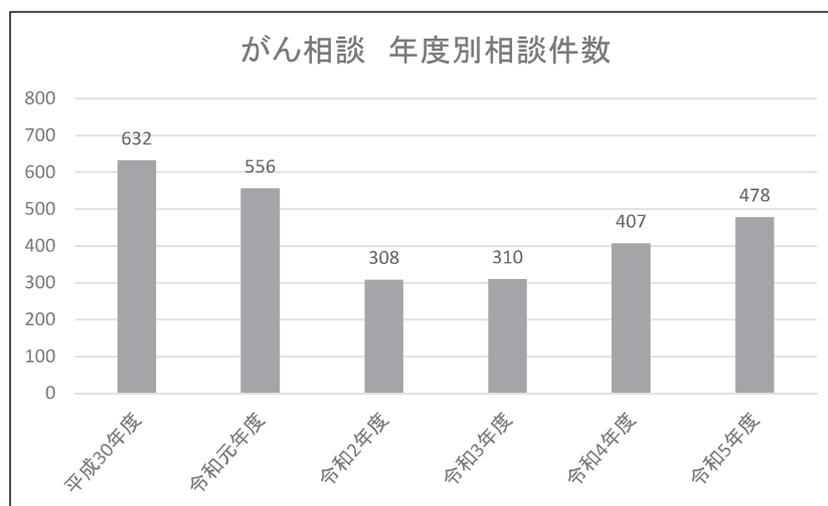
患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。

がんと診断されたときから、治療・症状の副作用・仕事・療養生活のことなどどのようなことでも相談を受付けております。

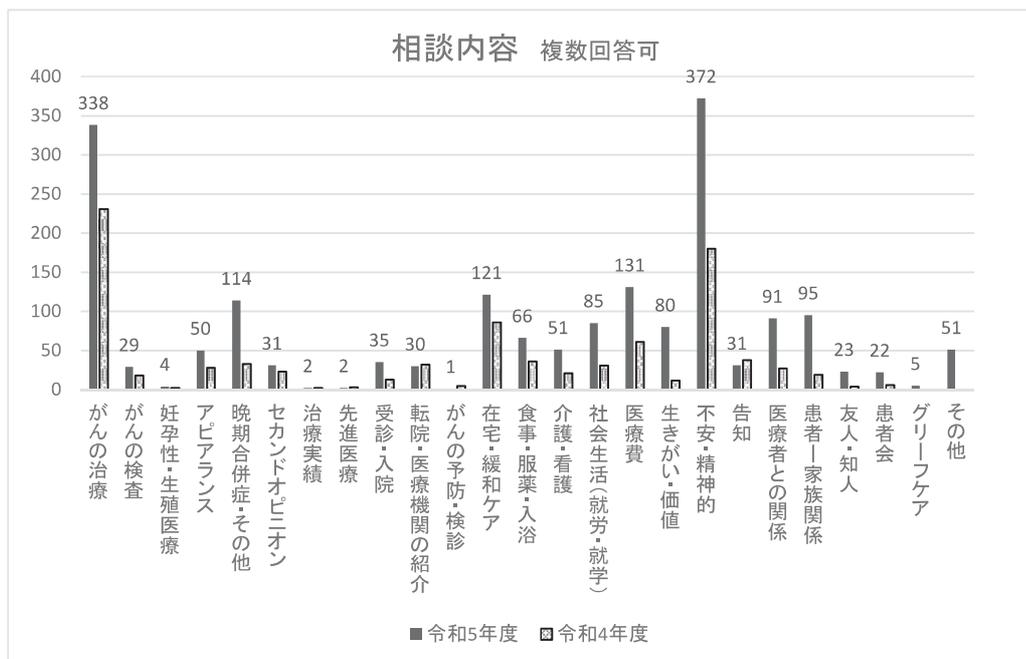
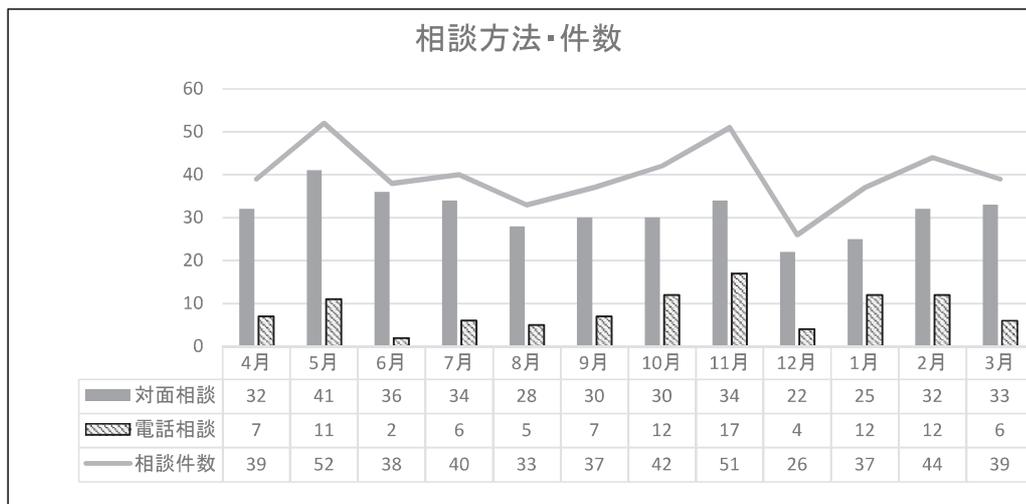
(ア) がん相談の実施(対面相談・電話相談)

(イ) がんに関する情報提供

(ウ) がん患者サロンの開催



令和5年度 各種統計



9 認知症疾患医療センター

室 長 北 蘭 久 雄

1 認知症疾患医療センターについて

当院の認知症疾患医療センターは令和3年8月に設立しました。当センターは、「もの忘れ相談室」と「もの忘れ外来」で構成されており、認知症の速やかな鑑別判断や、行動・心理症状（BPSD）と身体合併症に対する急性期医療、専門医療相談、関係機関との連携、研修会などを行うとともに、地域での認知症診断や治療、診断後のサポートにおける中核的な役割を果たすことを目的としています。

(1) もの忘れ相談室

平日の8時30分から17時まで受け付けており、精神保健福祉士や公認心理士が相談業務を行っています。また、もの忘れ外来の初回診察前に精神保健福祉士が患者さんから生活の様子等を伺っています。

なお、受診時以外でも認知症に関する福祉制度の相談や経済的な相談、その他生活上の心配事などの相談をお受けしています。

(2) もの忘れ外来（問診・診察）

毎週月・木の午前、もの忘れ外来の担当医が1枠毎に約1時間程度、診察を行っています。

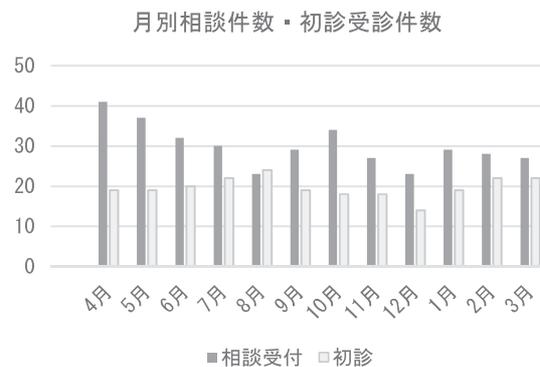
2 初回診察までの流れ

- (1) 事前に電話連絡で「もの忘れ外来」の予約を取る。なお、初診の際に紹介状がない場合は、非紹介患者初診加算料が必要となる。
- (2) 精神保健福祉士が初回診察前に患者・家族へ生活の現状や困りごとなどの聞き取りを行う。
- (3) もの忘れ外来担当医による初回診察。
- (4) 担当医による必要に応じた検査予約の実施。
- (5) 診察後、公認心理士・臨床心理士が2～3種類の検査を、数回に分けて実施。
(同日に複数の心理検査は実施できません。)
- (6) 再診

3 令和5年度の実績

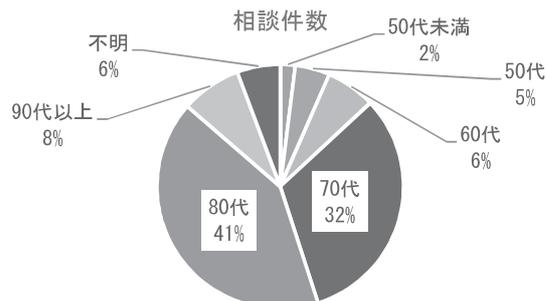
相談件数・初診受診件数

	相談受付 (新規)	初診
4月	41	19
5月	37	19
6月	32	20
7月	30	22
8月	23	24
9月	29	19
10月	34	18
11月	27	18
12月	23	14
1月	29	19
2月	28	22
3月	27	22
計	360	236



相談者・初診受信者の年齢

年齢	相談件数	内受診者数
50代未満	7	3
50代	16	8
60代	23	14
70代	113	78
80代	146	112
90代以上	28	21
不明	20	
計	353	236



10 医療情報システム管理室

室長 檜 林 敦

当院では平成21年1月から電子カルテを中心とした総合医療情報システムを導入しています。稼働後10年以上が経過していますが、これまで医療情報を一括で管理する部署が存在しておらず、その結果、院内の様々な医療情報システムの統括管理や各システムで蓄積されたデータの分析が組織横断的に行えていませんでした。

また、近年、他の医療機関との診療情報連携や大学をはじめとする研究機関との診療情報を使った連携研究が増えていますが、案件毎に個別の対応を行っており、効率的に進めることができていませんでした。

これらの問題を解決し、医療情報・情報機器の一括管理による診療・運営支援を進める組織として、令和4年1月に医療情報システム管理室を設立し、業務を開始しています。

(1) 人員構成(※ 専従職員はおらず、全構成員が兼務)

室長 1名(医師・上級医療情報技師):「医療情報システム安全管理責任者」

室員 8名(看護師1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、医事課職員2名、庶務課職員2名、患者総合サポートセンター職員1名)

(2) 業務内容

- ・医療情報・情報機器の一括管理体制の構築・拡充
- ・医療情報集約による診療の質・患者サービスの向上
- ・医療情報集約による業務改善・経営分析支援
- ・医療情報を扱う人材育成、病院職員に対する医療情報ならびに情報セキュリティの教育

(3) 令和5年度の取組

- ・電子カルテの設定変更／バージョンアップ
- ・院外カルテ閲覧システムの運用
- ・システム障害時のマニュアル整備
- ・院内の各種システムの更新支援
- ・電子お薬手帳端末の管理
- ・病院機能再編に向けてのシステム関連の課題整理・調整
- ・全職員向け e-learning システムの運用支援
- ・全職員向けの情報セキュリティ教育講習
- ・外部とのオンラインカンファレンスの構築支援
- ・川崎病院経営戦略会議における診療支援データ作成
- ・ICTに関連した大学との連携プログラムの支援
- ・厚生労働省のガイドラインならびに医療 DX への対応

IV チーム医療概要

1 緩和ケアチーム

(1) 人員構成

緩和ケア内科医 2名、精神科医 1名、薬剤師 2名、管理栄養士 1名、リハビリテーション療法士 5名、看護師 22名、チーム専従看護師 1名、リクナース 18名

(有資格者等)

緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 2名
緩和ケア認定看護師 3名

(2) 業務内容

- ア 院内の緩和ケアに関する標準化
- イ 痛みやその他の身体的な症状の軽減と精神的、社会的、スピリチュアルな問題への支援を行い、安全かつエビデンスに基づく質の高いケアを提供する
 - －毎週1回、多職種によるラウンドとカンファレンスを実施
 - －平日はチームメンバーの回診・直接診療を実施
- ウ 鎮静（セデーション）や輸液療法の適応を始め、DNR（Do Not Resuscitate）などについて、倫理的な側面からの助言を行う
- エ 患者療養の全経過を通して、家族に対して適切なケアを行えるよう、スタッフを支援する
- オ オープンな話し合いやチームカンファレンスを通して医療従事者の支援を行う
- カ 在宅緩和ケアの支援（患者総合サポートセンターとの連携）
- キ 院内及び地域の医療従事者に対し緩和ケアの知識と技術の普及
- ク 緩和ケア実施に関する教育と啓発

(3) 令和5年度 総括

ア 実績

緩和ケア診療加算の算定のべ1517件
緩和ケアチームへの新規依頼 187名
緩和ケア外来における診療 のべ13名

- イ 難治性疼痛に対する診療体制の強化のため、神経ブロックの病院間連携を開始
- ウ 教育活動

(ア) 緩和ケア研修会（令和5年11月19日、井田病院との共催）

(イ) ELNEC-J コアカリキュラム開催（令和5年12月23・24日）

2 褥瘡対策チーム

(1) 人員構成

皮膚科医（専任医師）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟専任看護師

(2) 業務内容

褥瘡保有者並びに褥瘡ハイリスク患者を対象に、褥瘡発生予防・早期発見・早期治癒である総合的な褥瘡対策を目的に、週に1度病棟回診を行っている。多職種メンバーと連携を図りながら多角的な視点で予防・治療・評価・実践指導を行っている。また、院内における褥瘡発生予防の体制・整備として褥瘡予防マットレスの管理・運営を担っている。

(3) 令和5年度の取り組み

ア 病棟回診によるカンファレンスの実施

全病棟を対象に、褥瘡保有者への早期治癒に向け、毎週月曜日チーム回診を実施し病棟スタッフや主治医と共にカンファレンスを実施している。カンファレンスの内容は、褥瘡治療や看護ケア方法、患者の栄養管理や薬剤による影響、リハビリ状況等についての実践、評価、調整を行っている。また、褥瘡ハイリスク患者に対する褥瘡予防についてのカンファレンスも実施している。

イ 褥瘡対策委員会開催

月に1度委員会を開催。参加メンバーは、各診療科の専任医師、病棟師長、病棟専任看護師、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士である。褥瘡発生率及び現状報告や最新の褥瘡対策に関する情報共有を行っている。

ウ 褥瘡予防に関する環境・マットレスの整備及び調整

エ 褥瘡対策に係る職員研修

褥瘡対策委員対象に「褥瘡対策に関する学習会」を4回/年実施（令和5年度）
全職員対象（新規看護職員は必須参加）に「院内褥瘡対策学習会」を2回/年実施
第1回学習会 日時：令和5年7月10日

「褥瘡危険因子評価票について」褥瘡管理者 佐藤

「危険因子評価票の入力方法について」褥瘡専任看護師 皆川

「DESIGN-R2020について」褥瘡専任医師皮膚科 西本

「褥瘡・MDRPU・スキン-ケアの違い」褥瘡専任看護師 布施・武藤・皆川

参加人数：120名

第2回学習会 日時：令和5年11月13日

テーマ：「褥瘡回診実況中継～多職種連携の実際～」シンポジウム形式で開催
シンポジスト

褥瘡専任医師：西本（皮膚科） 寺島（形成外科） 褥瘡専任看護師：皆川・斎藤
 薬剤師：後藤、栄養士：斎藤、理学療法士：岡野 褥瘡管理者：佐藤 皮膚・排泄ケア認定看護師 岩本

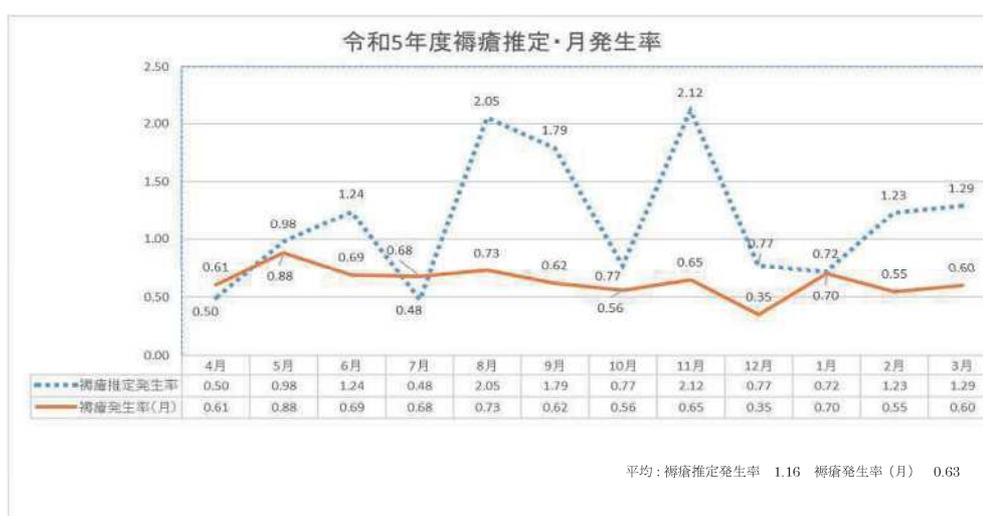
参加者：80名

(4) 実績

ア 褥瘡回診患者延べ数

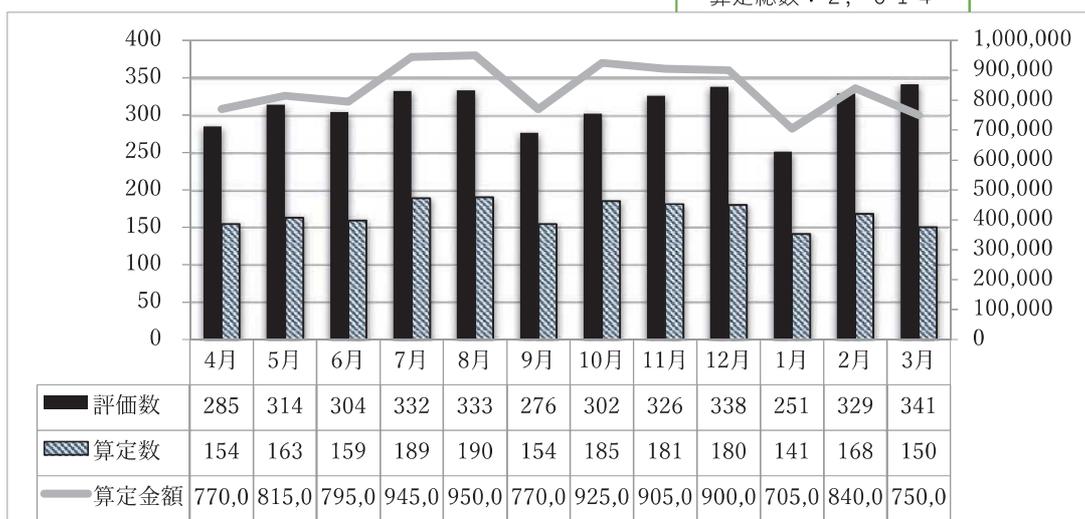
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回診件数(延べ)	135	165	134	141	125	103	143	130	137	151	131	106

イ 褥瘡推定発生・月の発生率



ウ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算実績

評価総数：3, 7 3 1
 算定総数：2, 0 1 4



3 認知症ケアチーム

(1) 人員構成

脳神経内科医(認知症学会専門医の資格を有する)、認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師、病棟リンクナース、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健社会福祉士

※認知症ケアに係る有資格者

認知症ケア専門士 2名取得(計 13名)

認知症ケア加算対応研修修了者 11名(計 54名)

(2) 業務内容

認知症による行動、心理症状や意思疎通の困難さが見られ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者に対し、病棟看護師や他職種が適切に対応することで、認知症の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられるよう支援している。

認知症疾患医療センターを持つ公立病院として、専門的視点を持った多職種メンバーと共に病棟回診やカンファレンスの開催、認知症ケアリハビリテーション等を行い住み慣れた地域へと繋がるよう支援を行っている。

(3) 令和5年度の取り組み

ア 病棟回診によるカンファレンスの実施。

毎週木曜日に10階から14階までの病棟を対象に実施。9階南病棟やICU病棟患者へも状況に応じ適宜対応。

イ せん妄ハイリスクケア患者への予防介入とせん妄ケアを実施。

ウ 認知症ケアリハビリテーション始動(プレテスト)2023年11月~14階フロアにて実施。

エ 認知症ケア委員会の開催。

専門スタッフ及びリンクナースが中心となって毎月第4木曜日に実施。

認知症医療や看護に関する実践報告と情報共有。

- ・症例検討9症例(看護師6症例、リハビリテーション科3症例)
- ・川崎市の取り組みSOSネットワーク認知症等の行方不明に対する取り組み。
- ・今だからこそ改めて知っておくべき認知症。
- ・アルツハイマー病治療薬「レカネマブ(レケンビ®)」発売に向けて。

オ 院内外全職員対象の教育講演会

開催日時 令和5年7月10日

テーマ:新規採用看護職員研修「認知症看護」

参加者:64名(令和5年4月新規採用職員対象)

開催日時 令和6年2月22日

テーマ:認知症ケア研修(全職員向け)

① 「認知症の新薬レカネマブと診療体制」講義

② 「認知症の人へのあたたかな対応を考える」実演

参加者：会場参加 87 名（看護師 54 名、医師 3 名、その他 10 名）

動画視聴 761 名（看護師 566 名、医師 38 名、薬剤師 29 名 管理栄養士 6 名、リハビリ療法士 6 名、臨床心理士/臨床技師/福祉士 61 名、事務職 54 名）計 848 名

開催日時 令和 6 年 2 月 9 日

テーマ：もっと知ろう認知症 第 1 部 認知症の最新治療

第 2 部 お悩み解決！ 認知症 Q&A

参加者：会場参加 117 名（院内 59 名、院外 20 名） Zoom 視聴 38 名 計 155 名

カ リンクナースと認知症看護認定看護師協働による部署別学習会の実施（12 病棟）。

キ 身体拘束最小化に向けたフローチャートの作成と運用開始。

ケ 啓蒙ポスター：認知症ケア新聞 1 号発刊「抑制されるってどんな感じ？」

(4) 実績

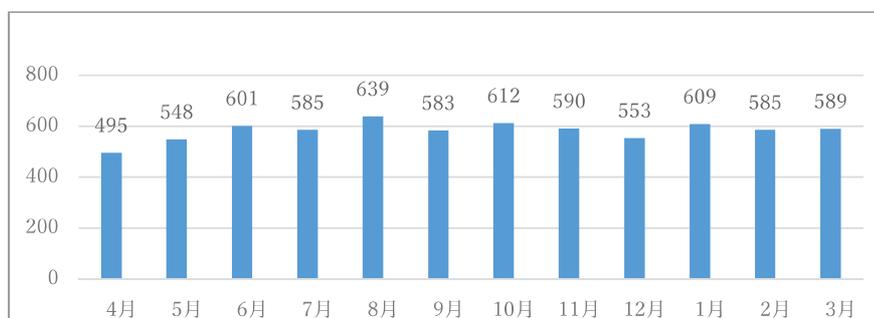
ア カンファレンス開催件数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
53	33	69	54	53	52	52	52	61	47	66	50	642

イ 認知症ケア加算算定数



ウ せん妄ハイリスク加算算定数



4 栄養サポートチーム（NST）・摂食嚥下支援チーム

(1) 人員構成

リハビリテーション科医師、内科医師、管理栄養士、薬剤師、専任看護師、臨床検査技師、言語聴覚士

(2) 業務内容

栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）では、食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、多職種が連携して活動を行っています。当院は、平成23年3月から栄養サポートチーム加算（200点/週/人）の算定を行っています。

また、令和2年度の診療報酬改定にて、摂食嚥下支援加算（令和4年度より摂食嚥下機能回復体制加算に名称変更）が新設されたことを受け、令和2年10月よりNSTと摂食嚥下支援チームに分けて活動を行っています。チームを分けることで、効率良く専門的な介入を行うことができます。

(3) 令和5年度の取り組み

ア 病棟回診におけるカンファレンスの実施

毎週火曜日に摂食嚥下支援チーム、金曜日にNSTが回診を行っています。各病棟にて、チームメンバー、病棟スタッフ、主治医などと対象患者のカンファレンスを行いました。

イ NST摂食嚥下支援チーム部会の開催

月1回、部会を開催し、NSTや摂食嚥下に関わる情報を共有しています。また、各病棟看護師が中心となり症例検討会を行いました。

ウ 部会内での勉強会の開催

NSTや摂食嚥下に関わる勉強会を3回/年行いました。

エ 専門資格

NST研修に医師1名が参加しました。

(4) 実績

介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（件）
NST	55	47	71	55	39	76	66	37	51	60	43	66	666

加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（件）
NST	51	45	65	54	37	68	58	36	51	58	41	65	629
摂食嚥下	29	28	28	34	59	37	56	31	52	52	49	50	505

5 排尿ケアチーム

(1) 人員構成

泌尿器科専門の医師、排尿障害患者を3年以上看護した経験を有する看護師、排尿障害患者のリハビリに従事した経験を有する理学療法士・作業療法士

(2) 業務内容

尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の症状を有する患者や尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれる患者を対象に、入院中から退院後も継続して、排尿の自立に向けて多職種が連携して活動しています。

(3) 令和5年度の取組

ア 排尿ケアラウンド

排尿障害を有する患者さんや排尿障害が見込まれる患者さんに対して早い段階で介入を行うために、週一回排尿ケアラウンドを行います。病棟と連携してあらかじめ患者さんの排尿状態を把握することにより効率的な診療が可能になります。いままで10N、12N、12S、13S病棟が対象でしたが、令和6年度は更に対象病棟を広げる計画をしています。

イ 外来におけるフォローの継続

入院中に排尿ケアラウンド介入対象となった患者さんのうち、必要な患者さんに対して外来でのフォローの継続を行います。入院から自宅へと環境が変化することによってさまざまな不便を感じる患者さんは一定数存在し、排泄というデリケートな問題を周囲に相談することができずに独りで抱えてしまうことがあります。入院中だけでなく外来でも介入を継続することによってこのような問題の解決を図っています。

ウ 病棟勉強会の開催

年二回を目安に病棟勉強会を開催しています。患者さんの排尿状態の把握や記録の方法、注意するべきポイントや排尿ケアラウンドへのコンサルテーションのタイミングなどの情報を共有します。

(4) 実績



V 事務部門概要

1 医事課

医事課長 酒 井 俊 明

令和5年度の診療稼働状況につきましては、決算上、入院診療稼働額は13,619,966千円で前年度比4.5%、外来診療稼働額は5,855,018千円で前年度比26.0%となりました。

また、患者数につきましても、入院患者が170,090人で前年度比2.0%、外来患者300,360人で前年度比-0.6%となりました。

診療稼働額については、新型コロナウイルス感染症が5類化となったことで、日常生活が徐々に戻り、患者数の増、手術数の増により入院収益が増加したと考えられます。

また、積極的に外来化学療法を実施したことなどにより、外来が患者数減にも関わらず、稼働額を増加することができました。

2 診 療 統 計

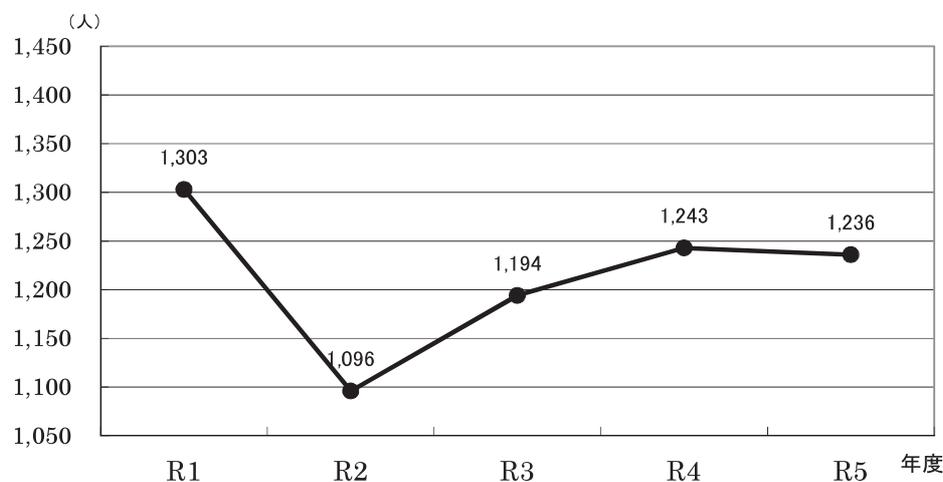
(1) 令和5年度外来患者状況

(R5.4~R6.3)

科 別	新 患	一日平均	再 来	一日平均	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均通院 日 数
内 科	7,968	32.8	101,162	416.3	109,130	0.4	36.3	13.7
精神・神経科	274	1.1	13,606	56.0	13,880	0.0	4.6	50.7
小 児 科	7,383	30.4	15,252	62.8	22,635	0.1	7.5	3.1
外 科	854	3.5	22,635	93.1	23,489	0.1	7.8	27.5
脳神経外科	304	1.3	3,183	13.1	3,487	0.0	1.2	11.5
整形外科	2,053	8.4	23,269	95.8	25,322	0.1	8.4	12.3
形成外科	482	2.0	2,528	10.4	3,010	0.0	1.0	6.2
心臓血管外科	17	0.1	1,682	6.9	1,699	0.0	0.6	99.9
皮膚科	1,161	4.8	12,780	52.6	13,941	0.0	4.6	12.0
泌尿器科	822	3.4	19,280	79.3	20,102	0.1	6.7	24.5
産婦人科	1,219	5.0	11,879	48.9	13,098	0.0	4.4	10.7
眼 科	432	1.8	9,561	39.3	9,993	0.0	3.3	23.1
耳鼻咽喉科	806	3.3	9,806	40.4	10,612	0.0	3.5	13.2
リハビリテーション科	566	2.3	5,944	24.5	6,510	0.0	2.2	11.5
放射線科	8	0.0	5,215	21.5	5,223	0.0	1.7	652.9
歯科口腔外科	2,435	10.0	11,047	45.5	13,482	0.0	4.5	5.5
救命救急センター	2,926	12.0	1,821	7.5	4,747	0.0	1.6	1.6
小 計	29,710	122.3	270,650	1,113.8	300,360	1,236.0	100.0	10.1

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

外来患者数（1日平均） $\frac{\text{診療日数 243 日} \times \text{患者延数}}{\text{新患者数}}$



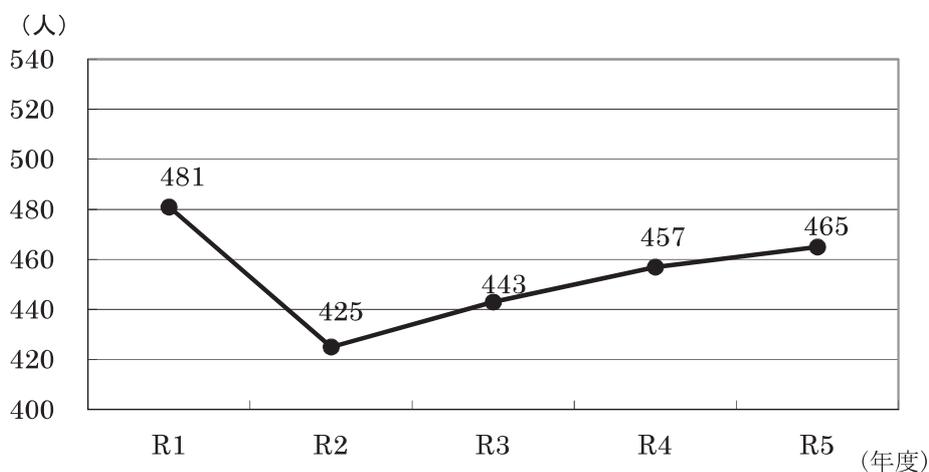
(2) 令和5年度入院患者状況

(R5.4~R6.3)

科 別	前年度 繰越	入 院	退 院	死亡 (再掲)	次年度 繰越	患者延数	一日平均
内 科	176	4,913	4,883	271	155	77,536	211.8
小 児 科	24	1,569	1,560	0	29	12,135	33.2
外 科	30	1,394	1,420	21	31	15,166	41.4
脳神経外科	14	338	346	9	17	6,447	17.6
整形外科	48	1,191	1,240	2	48	18,457	50.4
形成外科	1	104	107	1	2	963	2.6
心臓血管外科	2	61	64	0	1	1,029	2.8
皮膚科	5	157	166	1	3	2,574	7.0
泌尿器科	22	1,126	1,146	7	7	7,486	20.5
産婦人科	23	1,405	1,402	0	31	10,739	29.3
眼 科	0	305	304	0	0	1,319	3.6
耳鼻咽喉科	12	369	381	2	5	4,124	11.3
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0.0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	3	89	92	0	0	672	1.8
救命救急センター	13	750	682	336	11	5,031	13.7
小 計	373	13,771	13,793	650	340	163,678	447.2
感 染 症	0	0	0	0	0	0	0.0
感染小児科	0	0	0	0	0	0	0.0
精神科	14	202	212	0	13	6,412	17.5
合 計	387	13,973	14,005	650	353	170,090	464.7

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

入院患者数（1日平均）



(3) 病棟の利用状況

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
1 4 階 北	52	36	19,032	13,176	12,454	29	586	124
1 4 階 南	51	36	18,666	13,176	12,095	29	663	105
1 3 階 北	51	46	18,666	16,836	14,403	36	915	459
1 3 階 南	53	48	19,398	17,568	15,619	33	859	189
1 2 階 北	51	46	18,666	16,836	13,490	32	1,774	86
1 2 階 南	53	48	19,398	17,568	15,758	36	683	311
1 1 階 北	53	38	19,398	13,908	12,096	27	844	216
1 1 階 南	53	38	19,398	13,908	11,736	25	920	254
1 0 階 北	53	48	19,398	17,568	14,425	33	987	115
1 0 階 南	52	47	19,032	17,202	14,025	33	1,123	93
精 神	38	36	13,908	13,176	6,412	14	202	14
9 階 南	20	20	7,320	7,320	3,944	11	1,331	47
9 階 西 感 染	12	12	4,392	4,392	1,260	1	186	99
8 階 北	44	42	16,104	15,372	8,494	20	1,120	9
8 階 南	41	41	15,006	15,006	8,378	18	1,388	10
G C U	18	12	6,588	4,392	2,156	2	100	167
N I C U	6	6	2,196	2,196	2,037	6	178	1
I C U・C C U	12	8	4,392	2,928	1,308	2	114	666
合 計	713	608	260,958	222,528	170,090	387	13,973	2,965
新 生 児					3,915	12	615	0

(稼働日数 366 日)

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
一般	663	560	242,658	204,960	162,418	372	13,585	2,852
感染症	12	12	4,392	4,392	1,260	1	186	99
精神	38	36	13,908	13,176	6,412	14	202	14
合計	713	608	260,958	222,528	170,090	387	13,973	2,965
新生児	0	0	0	0	3,915	12	615	0

(稼働日数 366 日)

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

稼働病床数については、稼働延病床数を稼働日数で除した数とする。

(R5. 4. 1～R6. 3. 31)

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日 数	死 亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
674	42	23	34.0	65.4	94.5	19.8	42	18.7
737	40	20	33.0	64.8	91.8	17.3	34	16.2
1,109	268	32	39.4	77.2	85.5	14.2	43	13.1
990	57	34	42.7	80.5	88.9	16.9	44	15.8
1,800	77	15	36.9	72.3	80.1	7.5	8	6.5
854	138	38	43.1	81.2	89.7	20.5	25	19.4
937	127	22	33.0	62.4	87.0	13.6	18	12.5
1,008	168	23	32.1	60.5	84.4	12.2	24	11.1
1,039	62	34	39.4	74.4	82.1	14.2	7	13.2
1,179	37	33	38.3	73.7	81.5	12.2	9	11.2
212	5	13	17.5	46.1	48.7	31.0	2	30.0
555	823	11	10.8	53.9	53.9	4.2	372	3.6
105	178	3	3.4	28.7	28.7	8.7	3	7.9
1,119	7	23	23.2	52.7	55.3	7.6	0	6.6
1,389	12	15	22.9	55.8	55.8	6.0	0	5.0
260	1	8	5.9	32.7	49.1	12.0	0	10.5
16	163	6	5.6	92.8	92.8	21.0	2	20.8
22	760	0	3.6	29.8	44.7	19.2	19	18.9
14,005	2,965	353	464.7	65.2	76.4	12.2	652	11.2
616	0	11	10.7			6.4	0	5.4

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率 (%)		平均在院 日 数	死 亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
13,688	2,782	337	443.8	66.9	79.2	12.1	647	10.9
105	178	3	3	28.7	28.7	8.7	3	0.0
212	5	13	17.5	46.1	48.7	31.0	2	30.0
14,005	2,965	353	464.7	65.2	76.4	12.2	652	11.2
616	0	11	10.7			6.4	0	5.4

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{患者延数}}{\text{入院+退院}} \times 2$$

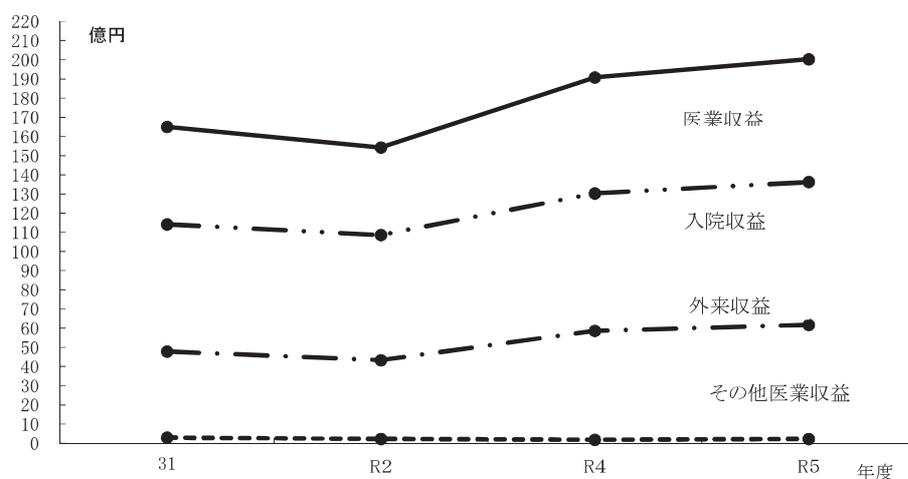
(4) 科別収益状況

科別の収益状況は、令和4年度の医業収益に対し、令和5年度度の医業収益は、外来収益が5.4ポイントの増収、入院収益は4.5ポイントの増収で、その他医業収益については26.0ポイントの増収となりました。医業収益全体では、率で5.0ポイント、額で約9億5千万円の増収となりました。

(R5.4～R6.3) (単位：千円)

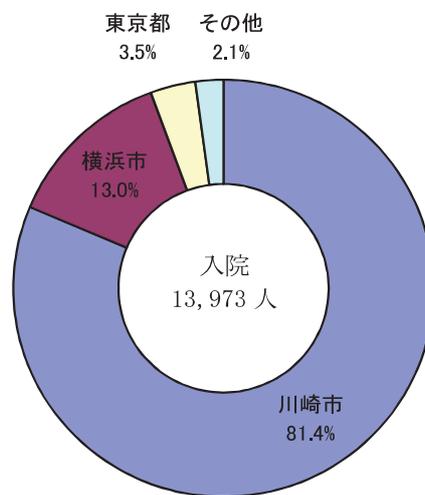
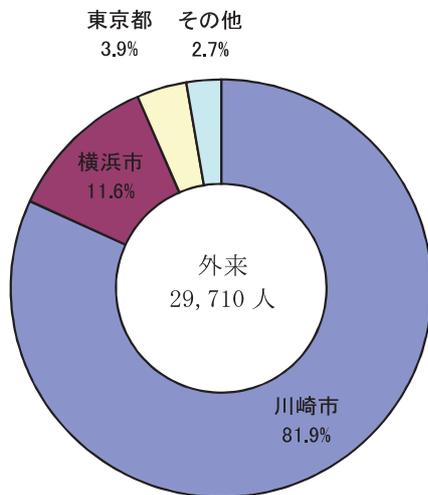
科 別	外 来		入 院		そ の 他 医業収益額	合 計	
	収益額	構成比率 (%)	収益額	構成比 率 (%)		収益額	構成比率 (%)
内 科	3,472,748	56.2	5,534,337	40.6		9,007,085	45.0
精 神 科	106,937	1.7	200,077	1.5		307,014	1.5
小 児 科	290,168	4.7	852,610	6.3		1,142,778	5.7
外 科	425,954	6.9	1,587,952	11.7		2,013,906	10.1
脳 神 経 外 科	56,217	0.9	754,001	5.5		810,218	4.1
整 形 外 科	176,621	2.9	1,757,384	12.9		1,934,005	9.7
形 成 外 科	22,796	0.4	70,279	0.5		93,075	0.5
心 臓 血 管 外 科	13,467	0.2	195,719	1.4		209,186	1.0
皮 膚 科	195,834	3.2	151,182	1.1		347,016	1.7
泌 尿 器 科	505,029	8.2	677,866	5.0		1,182,895	5.9
産 婦 人 科	193,054	3.1	876,581	6.4		1,069,635	5.3
眼 科	161,733	2.6	136,472	1.0		298,205	1.5
耳 鼻 咽 喉 科	175,571	2.8	310,535	2.3		486,106	2.4
リハビリテーション科	27,306	0.4	0	0.0		27,306	0.1
放 射 線 科	170,135	2.8	0	0.0		170,135	0.8
歯 科 ・ 口 腔 外 科	93,160	1.5	46,308	0.3		139,468	0.7
救命救急センター	90,998	1.5	468,663	3.5		559,661	2.8
感 染 症	-	-	-	-		-	-
そ の 他 医 業 収 益	-	-	-	-	231,071	231,071	1.2
合 計	6,177,728	100.0	13,619,966	100.0	231,071	20,028,765	100.0

年度別収益グラフ



(5) 地区別新患外来・入院患者数

	区名	患者総数 (人)		構成比率 (%)		患者数及び比率	
		外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院
川 崎 市	川崎区	16,289	7,583	54.8%	54.3%	24,318 81.9%	11,370 81.4%
	幸区	5,966	2,809	20.1%	20.1%		
	中原区	1,363	597	4.6%	4.3%		
	高津区	382	230	1.3%	1.6%		
	宮前区	187	83	0.6%	0.6%		
	多摩区	94	57	0.3%	0.4%		
	麻生区	37	11	0.1%	0.1%		
市 外	横浜市	3,460	1,817	11.6%	13.0%	5,392 18.1%	2,603 18.6%
	東京都	1,144	486	3.9%	3.5%		
	その他	788	300	2.7%	2.1%		
合計		29,710	13,973	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



(6) 救急患者取扱状況

ア 月別取扱状況

(R5.4~R6.3) (単位：人又は台)

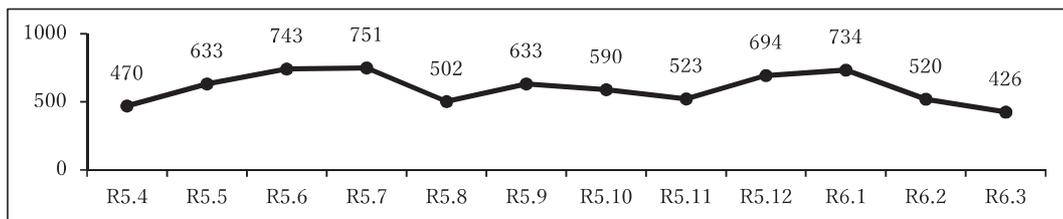
区分	交通事故	一般負傷	自損行為	急病	分娩	その他	合計	来院方法別患者数			計 合
								救急車	パトカー	その他	
4月	25	95	5	1,005	19	96	1,245	410	0	835	1,245
5月	10	105	4	1,249	12	69	1,449	406	1	1,042	1,449
6月	16	74	1	1,295	26	79	1,491	394	3	1,094	1,491
7月	16	75	2	1,485	16	71	1,665	480	1	1,184	1,665
8月	20	72	4	1,203	23	59	1,381	415	3	963	1,381
9月	16	75	2	1,485	16	71	1,665	480	1	1,184	1,665
10月	19	92	1	1,251	20	45	1,428	375	2	1,051	1,428
11月	19	96	1	1,088	15	76	1,295	418	2	875	1,295
12月	7	77	1	1,517	14	73	1,689	432	2	1,255	1,689
1月	15	57	2	1,636	16	51	1,777	421	2	1,354	1,777
2月	9	45	0	1,105	12	59	1,230	345	1	884	1,230
3月	15	67	3	969	17	79	1,150	370	0	780	1,150
計	187	930	26	15,288	206	828	17,465	4,946	18	12,501	17,465
構成比率(%)	1.1	5.3	0.1	87.5	1.2	4.7	100.0	28.3	0.1	71.6	100.0

イ 科別取扱状況

(R5.4~R6.3) (単位：人)

区分	科別	内科	神経	小児	外科	脳外	整形	形成	心外	皮膚	泌尿	産婦人科	眼科	耳鼻	リハビリ	放射	口外	救命救急	計
外来	患者数	3,847	2	6,469	70	57	328	65	0	70	97	82	9	176	2	26	309	3,094	14,703
	構成比率(%)	26.2	0.0	44.0	0.5	0.4	2.2	0.4	0.0	0.5	0.7	0.6	0.1	1.2	0.0	0.2	2.1	21.0	100.0
入院	患者数	1,315	22	481	106	38	39	2	0	8	22	346	0	17	0	0	0	366	2,762
	構成比率(%)	47.6	0.8	17.4	3.8	1.4	1.4	0.1	0.0	0.3	0.8	12.5	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	13.3	100.0
計	患者数	5,162	24	6,950	176	95	367	67	0	78	119	428	9	193	2	26	309	3,460	17,465
	構成比率(%)	29.6	0.1	39.8	1.0	0.5	2.1	0.4	0.0	0.4	0.7	2.5	0.1	1.1	0.0	0.1	1.8	19.8	100.0

ウ 令和5年度小児急病センター患者受入状況



3 手術統計

ア 外科

術式	件数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
食道癌手術	5	18	12
食道裂孔ヘルニア手術	2	3	1
特発性食道破裂手術	0	1	0
胃全摘術	5	5	7
幽門側胃切除術	24	26	18
局所切除術	5	6	6
バイパス術	3	7	7
広範囲胃切除術	0	1	2
グラハム術	6	7	6
胃単純縫合術	0	0	0
合計	50	74	59
右側結腸手術	44	51	34
左側結腸手術	42	26	27
直腸手術	23	33	30
ハルトマン術	9	13	12
人工肛門造設術	21	24	32
人工肛門閉鎖術	16	22	6
肛門手術（痔核その他）	34	44	30
合計	189	213	171
肝切除術	28	25	38
胆嚢摘出術	128	112	99
膵頭十二指腸切除術	13	16	22
尾側膵切除術	7	10	7
その他	10	12	10
合計	186	175	176
乳癌手術	65	65	67
Bt	55	48	51
Bp	10	17	16
乳房温存率	15	26	24
SN生検施行率	77	71	75
良性疾患	10	7	5
合計	75	72	72
動脈瘤	40	56	34
末梢性動脈疾患	107	104	82
急性動脈閉塞症	35	26	17
下肢静脈瘤	27	20	20
内シャント関連	167	182	198
その他	131	127	99
合計	507	515	448

平成28年度より、術式の項目を変更。

イ 呼吸器外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
肺 癌	全摘出	0	1	0
	肺葉切除	6	7	18
	肺区域・部分切除	2	3	5
	胸腔鏡下肺葉切除	39	49	40
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	19	23	17
	気管支形成術を伴う肺葉切除・肺全摘	1	4	0
	試験開胸術	1	2	1
転 移 性 肺 腫 瘍	肺全摘出	0	0	0
	肺葉切除	3	0	1
	肺区域・部分切除	1	1	2
	胸腔鏡下肺葉切除	1	1	0
	胸腔鏡下葉切除・肺区域・部分切除	7	8	9
肺（その他悪性）	胸腔鏡下肺区域・部分切除	2	4	5
肺（良 性）	肺全摘出	0	0	1
	肺葉切除	2	0	2
	肺区域・部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺葉切除	0	1	0
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	4	3	4
気胸・嚢胞性肺疾患	肺部分切除・肺縫縮術等	1	1	2
	胸腔鏡下肺部分切除・肺縫縮術等	18	19	16
縦 隔 腫 瘍	胸腺摘出術	6	4	1
	腫瘍摘出術	5	6	7
重症筋無力症	拡大胸腺摘出術	0	0	0
縦 隔（その他）	腫瘍・リンパ節生検	2	1	2
	リンパ節摘出	0	1	1
	交感神経節切除	0	0	0
胸 膜（悪 性）	胸膜肺全摘	0	0	0
	生検	3	0	4
胸 膜（良 性）	腫瘍摘出術	0	1	0
	生検	6	4	3
	開窓術	0	0	0
	膿胸腔搔把・筋弁充填・剥皮術	2	4	5
胸 壁	腫瘍摘出術等	1	3	1
	肺葉切除等	1	0	0
外 傷				
そ の 他		15	12	2
計		148	163	148*

*：疾患の重複する例があり、各項目の合計と異なります

ウ 内視鏡センター利用状況

分 類	件 数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管内視鏡	4,342	4,276	4,265
超音波内視鏡	9	1	1
食道・胃粘膜切除術 (食道粘膜切除術)	32	21	26
(胃粘膜切除術)	7 (ESD 7)	6 (ESD 6)	3 (ESD 3)
中・下咽頭粘膜切除術	24 (ESD 24)	15 (ESD 15)	22 (ESD 18)
上部消化管静脈瘤治療 (EVL)	0	0	0
(EIS)	26	23	44
(1)	(22)	(23)	(44)
胃静脈瘤硬化療法 (SOS)	0	0	0
狭窄拡張術	35	24	26
止血術	85	58	82
人工食道挿入	0	0	0
胃ろう造設 (PTEG)	35	83	55
イレウス管挿入	1	0	3
異物除去	21	16	19
下部消化管内視鏡	1,911	1,948	1,861
大腸粘膜切除術 / ポリペクトミー	441 (ESD 7)	482 (ESD 1)	513 (ESD 4)
大腸ステント	11	7	6
吻合部拡張術	7	4	0
止血術	19	12	11
カプセル内視鏡	19	20	16
気管支鏡	278	138	178
経気管支肺生検	0	205	123
膵・胆道内視鏡	339	355	466
逆行性膵・胆管造影	206	215	207
超音波内視鏡	133	140	259
EUS-FNA	22	27	44
乳頭括約筋切開術	75	59	62
乳頭バルーン拡張術	16	16	17
胆管結石採石・砕石術	71	62	66
経鼻胆道ドレナージ術	73	50	39
胆管ステント挿入術	54	63	66
膵管ステント挿入術	9	6	7
乳頭切除術	2	0	0
細胞診	0	0	0
組織診	0	0	0
計	6,898	6,962	6,931

エ 脳神経外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
腫 瘍	メニンジオーマ	12	26	12
	グリオーマ	5	2	6
	転移性脳腫瘍	10	28	7
	頭蓋咽頭腫	0	0	0
	下垂体腫瘍	5	2	6
	その他の腫瘍	1	15	
血管疾患	脳動脈瘤（直達手術のみ）	13	20	13
	高血圧性脳出血	17	26	14
	脳動静脈奇形（直達手術のみ）	2	1	1
	血管内手術・出血性疾患（脳動脈瘤・動静脈奇形）	15	12	33
	血管内手術・閉塞性疾患（ステント・血栓除去など）	29	47	7
	その他（水頭症など）	38	22	9
外 傷	慢性硬膜下血腫（水腫）	27	41	36
	急性硬膜下血腫	1	12	9
	急性硬膜外血腫	1	3	0
	陥没骨折	0	0	0
	骨弁形成術・減圧開頭術	1	2	2
	その他（水頭症など）	11	7	
水 頭 症	癌性髄膜炎・正常圧水頭症など	32	31	23
	髄膜瘤など	0	0	0
奇 形				
そ の 他	その他	70	30	
計		258	327	263

オ 整形外科

術 式	件 数		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
脊柱、脊髄、頸椎、前方	16	18	16
〃、後方	36	35	45
胸椎、前方	2	0	0
〃、後方	11	29	36
腰椎、前方	24	31	37
〃、後方	161	159	206
腱、神経	33	75	79
骨 折	317	339	287
骨折以外の外傷	54	39	28
抜 釘	65	91	89
手の手術	108	94	124
先天性奇形	3	3	2
骨軟部腫瘍	16	21	61
関節鏡 手	16	32	21
肘	4	4	6
肩	82	55	55
膝	55	30	28
股	1	1	0
人工股関節	74	88	116
人工膝関節	56	51	63
人工肩関節	23	15	16
その他の人工関節(肘、指、足)	2	9	7
上肢切断術(指含む)	4	1	0
下肢切断術(踵含む)	18	12	11
その他	24	60	24
計	1,205	1,292	1,357